2018
2
No. 665

國學院大學学報

国学院大学　平成30年2月10日㈯　定期号（毎月10日発行）1部20円
［発行］国学院大学　［編集］総合企画部広報課　〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目　［電話］03（5466）0130　［FAX］03（5466）0528

「寒かぜ」
柴山の春の芽吹きの
とのはぬ山に向へば、
風の　つめたさ
（「水の上」）
釈　迢空

K:DNA

2018
2

K:DNA――創立135年目を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風　若いエネルギーが未来を変える

●編集　総合企画部広報課／学生アドバイザーメディアチーム［永井伶奈（日文４）／尾澤桃子（法３）／本間由（日文３）／柳下桂一郎（史３）／後藤哲冶（日文２）／山本莉紗子（外文２）／石原礼菜（日文１）／鈴木亜美（日文１）］

祭儀　■ **月次祭・祈年祭**　3月1日（木）　午前10時　神殿　■ **卒業奉告祭**　3月16日（金）　午前10時　神殿

20年間の成長に感謝と誓い――成人加冠式

第11回成人加冠式が1月20日、渋谷キャンパスで執り行われた。色鮮やかな平安衣装を身にまとった男女計46人の新成人学生が参加し、多くの保護者、教職員、在学生からの祝福を受けた。

式典では、成人の証しである冠や釵子（さいし）などを教職員から授与される「加冠の儀」の後、学内の神殿に奉告。続く「祝賀の儀」では、在学生が祝意を込めた神楽舞などを披露した。

国内の大学で、神式の成人式を公式行事として行うのは本学のみ。

司会である「典儀」を務めた神道文化学部の茂木貞純教授は、「学年末で試験もあり忙しい中、伝統ある加冠式を滞りなく行うことができ、大変うれしい。この式は、学生たちの自主的な企画、準備のもとで進んでいる。学生たちの熱意が続く限り、バックアップしていきたい」と話した。

新成人　神前で決意新たに

神道文化学部が主催して１月20日に120周年記念２号館祭式教室で執り行われた第11回成人加冠式。神道文化学部をはじめとする各学部の男子学生20人、女子学生26人の新成人が、男子学生は衣冠や狩衣、女子学生は斎服や正服を身につけて式に臨んだ。新成人が着用した正装衣冠は、院友神職会東京都支部から寄贈されたもの。

「加冠の儀」では、武田秀章神道文化学部長・教授、門広乃里子法学部長・教授ら６人の教職員が加冠役となり、男子学生には冠や烏帽子、女子学生には釵子や額当（ぬかあて）を一人一人の頭上に授けた。

武田学部長が祝辞を送ると、新成人を代表して山田夏生さん（神文２）が「20年間育ててくれた家族に感謝するとともに、先生方からの熱い激励に成人としての自覚と決意、責務を感じている。世のため人のために尽くせるよう、努力していく」と答辞を述べ、決意を新たにした。

続いて神殿に移動し、「大学神殿奉告の儀」が行われた。多くの保護者や学校関係者に見守られる中、修祓の後、中村京さん（同）が誓詞を奏上し、全員で拝礼。祭式教室に戻ると「祝賀の儀」が行われ、学生有志が祭祀舞や神楽舞などを披露して新成人を祝福した。式の終了後、中村さんは「ご神前でこのようなきれいな正装をまとって誓詞をあげる機会は滅多にないので、大変に光栄なこと。緊張しないよう、たくさん練習してきた」と充実した表情を見せた。

成人加冠式では毎年、裏方である企画や事前の準備、当日の運営に在学生が携わっている。今年は舞や楽に17人、準備や運営に31人の計48人が協力し、昨年12月初旬から予行演習を行った。この日の式を滞りなく終え、斎庭（ゆにわ）の統括を務めた山名浩司さん（神文４）は「練習の時間、回数が限られていたので、無事に新成人をお祝いできてほっとした。私も２年前に参列したので、伝統を後輩たちにつないでいかなければならないと思いながら臨んだ」。衣装の着付けを担当した小野裕徳さん（同）は「装束の中には天然繊維のものもあり、カビやシワがつかないよう定期的に点検してきた。こうした華やかな行事は本学ならではだと思うので、新成人の皆さんには誇りを持ってほしい」と話した。

みはるかすもの

全国で記録的な厳冬が続いている。東京都心は、2月に48年ぶりに氷点下4度を観測。全国各地で観測開始以来の最低気温や最大積雪量を更新している▼昭和50年以来の豪雪となった福井県をはじめ、北陸、東北各地で生活への影響が甚大。物流がストップし、生活に必要なガスや灯油、ガソリンの供給もままならない。除雪が進まずゴミの収集ができない地域もあるという▼道路の除雪が進まなければ、人や物も往来できない。鉄道も線路や架線が凍れば動けない。電気も水道もガスも然り。昼夜を問わず除雪にあたる人々には頭が下がる▼1月22日に関東地方を襲った大雪では、降り続ける雪の中、主要駅は家路を急ぐ人でごった返した。乗車を待つ長い列の中で、社会インフラを支える人の苦労を思わずにはいられなかった▼3月の声とともに大学3年生の就職活動が本格化する。働き方改革が叫ばれる昨今、採用活動では、ワークライフバランスや福利厚生など待遇面をアピールする企業も多い。大手就職サイトを運営するマイナビが発表した今年3月卒の大学生の意識調査でも「楽しく働きたい」「個人の生活と仕事を両立させたい」という学生たちが半数だ。他方、「社会に貢献したい」は6％、「人のためになる仕事をしたい」は16％だ▼一人の社会人として、どのような形で地域や社会に貢献するか。働きやすさや待遇も大事だが、進路を決める学生たちには、今一度考えてもらいたい。

情報収集能力、パソコンのスキルが向上

学生リアル調査

国学院大学は、全学部生1万190人を対象とした独自の学生実態調査「学生リアル調査」を昨年11月7～23日、インターネットを通じて実施した。4回目となった今回は、前年度より87人多い4119人から回答を得た（回答率40・4％）。

調査結果によると、大学入学後の能力変化について、「情報収集能力」「パソコンのスキル」が上がったと感じている学生が、いずれも6割を超えた。一方、「日本文化への理解」が向上したと答えた学生は6割近くにのぼったものの、「日本語能力」が向上したとの回答は半数に満たなかった。

今年度から新たに設けた質問として最近1年以内に読んだ本の数を聞いたところ、10冊以下（0冊を含む）が過半数となった。

調査結果から学生たちの行動実態や課題の一端が見えてきた。

【6・7面詳報】

主な内容　■2面／池澤夏樹氏が基調講演　■3面／平成29年度 補正予算成立　■4面／法学会懸賞論文表彰　■5面／経済学会懸賞論文表彰　■6・7面／特集 学生リアル調査　■8面／インフォダイジェスト

最終面から K:DNA　■Ⅰ面／第11回 成人加冠式　■Ⅱ面／K-SPIRITS 国大生アーティスト いつみさん　■Ⅲ面／オトナの銘　■Ⅳ面／K-SPIRITS 準硬式野球部 立石航己選手

国際シンポジウムの中で行われた公開討論。左端は進行役を務めた研究開発推進機構の平藤喜久子教授＝いずれも1月20日、常磐松ホール

池澤夏樹氏が基調講演

国際シンポ「神話の翻訳」

古事記学センターは1月20日、平成29年度国際シンポジウム「時空を超える〈言葉〉―神話の翻訳をめぐって―」を常磐松ホールで開いた。

初めに芥川賞作家の池澤夏樹氏が、自身で編集した全30巻からなる『日本文学全集』（河出書房新社）の第1巻である、自らの新訳による『古事記』を題材に基調講演。池澤氏は「古典を楽しんでもらうためには現代語訳が必要だと考えた。翻訳によって失われるものもあるが、得られるものを優先するのは文学の世界の必然だ」と指摘した。

池澤氏はまた、読みやすさを考慮して訳文の下段に脚注を配置したレイアウトについて、「構文が単純で語彙も多くない『古事記』には、たたみかけるように読める速度感が求められる。『古事記』だからこそ許されると考えた」と解説した。

続いて、カターニア大学（伊）のパオロ・ヴィラーニ准教授、国立高等研究実習院（仏）のアラン・ロシェ教授、立教大学の月本昭男名誉教授（上智大学特任教授）がそれぞれ発題。最後に、京都外国語大学のシルヴィオ・ヴィータ教授を交えた公開討論が行われた。

今回の国際シンポジウムは、文部科学省の推進する28年度「私立大学研究ブランディング事業」タイプB（世界展開型）の一つに本学の「『古事記学』の推進拠点形成―世界と次世代に語り継ぐ『古事記』の先端的研究・教育・発信―」が採択されてから2回目。古事記学に関するシンポジウムとしては4回目となった。当日、会場には約200人が来場し、登壇者の話を熱心に聞き入った。

基調講演する池澤夏樹氏

第1回古事記アートコンテスト

特選に新井さん（神文1）

『古事記』に対する正しい理解や日本文化への関心を促すことを目的とした第1回「古事記アートコンテスト」（古事記学センター主催、神道文化会共催）の表彰式が1月20日、常磐松ホールで行われ、特選に輝いた新井麻美さん（神文1）ら全国9学生に賞状などが贈られた。

コンテストは全国の大学生、短期大学生、専門学校生、大学院生を対象として、『古事記』の内容に関する絵画やイラストを公募。117点の応募があった。

国際シンポジウムに引き続いて行われた表彰式では、谷口雅博・古事記学センター長が審査員を代表し、「『古事記』の神話や説話をどう表現しているかが審査のポイントになった。受賞作はいずれも技術的に優れ、独創性に富んでいる」と総評。新井さんの受賞作「古事記との出会い」については、「古事記を読んだときの感動や驚きが素直に表されている」とたたえた。

新井さんは「実家が神社で、幼い頃に読んだ『古事記』の絵本の世界観をイメージして描いた。『古事記』は難しい読み物ではなく、童話のよう。子供も外国人も親しみを持って読めるように広まってほしい」と喜びを語った。

受賞作は、本学博物館で3月11日まで開催中の特集展示「国学院の『古事記』研究―『古事記』絵画化の四百年―」で展示されている。

特選を受賞した新井麻美さんの作品「古事記との出会い」

第1回 古事記アートコンテスト受賞作

◎特選
「古事記との出会い」
新井麻美　国学院大学神道文化学部神道文化学科1年

◎入選
「天沼矛」
吉田晴香　国学院大学神道文化学部神道文化学科2年
「大国主神」
川元日菜子　国学院大学神道文化学部神道文化学科4年

◎佳作
「決戦！　八俣遠呂智!!」
八木沼宣哉　国学院大学文学部日本文学科1年
「自凝島の誕生」
吉田ひかる　山形県立米沢女子短期大学社会情報学科1年
「ヨモツヘグイ」
小林翔也　国学院大学文学部哲学科2年
「大国主命と白兎」
今橋晶子　国学院大学神道文化学部神道文化学科1年
「日本列島神々絵巻」
坂本和香　国学院大学神道文化学部神道文化学科1年

◎審査員特別賞
「オトタチバナヒメ」
横山七海　愛知県立芸術大学美術学部美術科2年

（敬称略）

A日程入試 3日間で1万4千人が受験

2月2日から4日まで実施された本学A日程入学試験には、昨年度並みの1万4109人が出願した。入学試験は本学会場（渋谷・たまプラーザ）のほか地方8会場でも実施。大きなトラブルもなく3日間の試験を終えた。合格発表は2月14日。

本学の一般入学試験は、2月26日にB日程入試が行われる。センター試験利用型入試では、V方式（Ⅱ期）の出願を3月3日まで受け付ける。

第138回神職養成講習会を開講

第138回神職養成講習会が2月5日から始まった。この講習会は、神社本庁の定めにより、必要な資格を短期間に取得させる目的で開設している。今回は、直階45人、権正階32人が受講。

神殿での開講奉告祭に続いて行われた開講式では、赤井益久学長が「1カ月間、神職の使命は何か、神様と向かい合うために何が必要かを常に考えて講習に取り組むことを希望します」と挨拶した。講習会の期間は、直階が3月6日、権正階が8日まで。

同講習会では、昨年夏までに1万7千人以上の受講生が修了している。

訃報 山崎元法人理事 逝去

山崎豊彦元理事が2月1日に逝去。89歳。葬儀は、近親者により執り行われた。

山崎氏は、昭和3年生まれ。23年本学専門部卒業。京成電鉄勤務を経て28年大学事務局庶務課勤務。56年総務部長、61年事務局次長、62年事務局長、平成元年法人参事（理事待遇）、6年定年により退職。

訃報 出世文学部教授 逝去

出世直衛文学部教授が2月9日に逝去。59歳。通夜は14日午後6時から、告別式は15日午前10時30分から妙蓮寺斎場（横浜市港北区）で。喪主は妻の富久子氏。

出世氏は、昭和34年生まれ。57年上智大学外国語学部卒業、62年同大学院外国語学研究科前期課程修了、平成4年同後期課程単位取得退学。本学文学部兼任講師などを経て、6年本学文学部専任講師。8年同助教授、17年同教授。23年から27年まで教育開発推進機構共通教育センター副センター長、29年からは文学部副学部長を務めていた。

専門は言語学、音声学。

教職員人事

退　職

◎大学事務局◇事務嘱託▽小池陽子（総務部総務課）

平成30年1月31日付

平成29年度 補正予算成立

平成29年度学校法人国学院大学補正予算が、1月25日開催の理事会、評議員会で承認、成立した。

◇資金収支予算

資金収支予算は会計年度中のすべての収入予算および支出予算の内容と支払資金の顛末を明らかにすることを目的としている。

◇事業活動収支予算

事業活動収支予算は、①教育活動②教育活動以外の経常的な活動③①②以外の活動に対応する事業活動収支および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、当該会計年度において基本金に組み入れる額を控除した、当該会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動および事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としている。つまり、「3つの活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにする」＝区分経理、「均衡の状態を明らかにする」＝収支の均衡を主な目的としている。

詳細は大学ホームページに掲載している。

（財務部 経理課）

資金収支補正予算書 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで （単位:百万円）

収入の部

科目	補正予算	予算	増減
学生生徒等納付金収入	13,721	13,586	135
手数料収入	618	618	0
寄付金収入	570	469	102
補助金収入	2,213	2,128	84
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	143	167	△24
受取利息・配当金収入	146	156	△10
雑収入	437	349	88
借入金等収入	1,066	1,067	△1
前受金収入	2,426	2,929	△503
その他の収入	1,817	1,946	△129
資金収入調整勘定	△3,301	△3,164	△137
当年度収入合計	19,856	20,251	△395
前年度繰越支払資金	12,005	10,873	1,132
収入の部合計	31,861	31,124	737

支出の部

科目	補正予算	予算	増減
人件費支出	9,642	9,490	152
教育研究経費支出	3,978	4,054	△76
管理経費支出	1,246	1,207	39
借入金等利息支出	17	19	△2
借入金等返済支出	1,290	1,290	0
施設関係支出	1,306	1,522	△216
設備関係支出	487	380	107
資産運用支出	4,531	2,621	1,910
その他の支出	312	184	128
予備費	499	499	0
資金支出調整勘定	△209	△179	△30
当年度支出合計	23,099	21,087	2,012
翌年度繰越支払資金	8,762	10,037	△1,275
支出の部合計	31,861	31,124	737

事業活動収支補正予算書 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで （単位:百万円）

		科目	補正予算	予算	増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	13,721	13,586	135
		手数料	618	618	0
		寄付金	169	167	2
		経常費等補助金	2,193	2,108	85
		付随事業収入	143	167	△24
		雑収入	437	349	88
		教育活動収入計	**17,280**	**16,995**	**285**
	事業活動支出の部	人件費	9,583	9,488	95
		教育研究経費	5,608	5,656	△48
		管理経費	1,389	1,349	40
		教育活動支出計	**16,580**	**16,493**	**87**
教育活動収支差額			700	502	198
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	146	156	△10
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	**146**	**156**	**△10**
	事業活動支出の部	借入金等利息	17	19	△2
		教育活動外支出計	**17**	**19**	**△2**
教育活動外収支差額			129	137	△8
経常収支差額			828	639	189

		科目	補正予算	予算	増減
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	442	337	105
		特別収入計	**442**	**337**	**105**
	事業活動支出の部	資産処分差額	31	25	6
		特別支出計	**31**	**25**	**6**
特別収支差額			411	312	99
［予備費］			499	499	0
基本金組入前当年度収支差額			740	452	288
基本金組入額合計			△3,719	△3,418	△301
当年度収支差額			△2,979	△2,966	△13
前年度繰越収支差額			△298	△1,560	
基本金取崩額			16	3	
翌年度繰越収支差額			△3,261	△4,523	
（参考）					
事業活動収入計			17,868	17,488	380
事業活動支出計			17,128	17,037	91

平成30年度 学年暦が決定

平成30年度の学部、大学院の学年暦が決定した。詳細は別表のとおり（入試関連行事を除く）。

学部学年暦

30年	3月31日(土)～4月6日(金)	オリエンテーション、履修ガイダンスなど
	4月1日(日)	入学式
	4月7日(土)	前期授業開始
	5月1日(火)	神殿鎮座記念祭（休講）
	5月2日(水)	校内整備（休講）
	7月16日(月･祝)	「海の日」ですが、通常の授業を実施します
	7月27日(金)	前期授業終了
	7月28日(土)～8月3日(金)	前期試験
	8月6日(月)～9日(木)	サマーセッション①
	8月8日(水)～10日(金)	追試験
	8月13日(月)～9月20日(木)	夏季休業
	9月10日(月)～13日(木)	サマーセッション②
	9月21日(金)	後期授業開始
	9月24日(月･休)	「秋分の日」の振替休日ですが、通常の授業を実施します
	10月8日(月･祝)	「体育の日」ですが、通常の授業を実施します
	11月4日(日)	国学院大学創立記念日
	11月23日(金･祝)	「勤労感謝の日」ですが、通常の授業を実施します
	12月24日(月･休)	「天皇誕生日」の振替休日ですが、通常の授業を実施します
		年内授業終了
	12月25日(火)～31年1月4日(金)	冬季休業
31年	1月5日(土)	授業再開
	1月19日(土)	大学入試センター試験会場のため休講
	1月22日(火)	補講実施指定日（1～7時限）＜通常授業なし＞
	1月23日(水)	補講実施指定日（1～7時限）＜通常授業なし＞
	1月24日(木)	後期授業終了
	1月25日(金)～31日(木)	学年試験
	2月6日(水)～8日(金)	追試験
	3月17日(日)	卒業式（予定）
	3月18日(月)～21日(木･祝)	スプリングセッション（21日は「春分の日」ですが、通常の授業を実施します）

大学院学年暦

30年	4月2日(月)	大学院入学式、新入生履修指導
	4月2日(月)～6日(金)	オリエンテーション、履修ガイダンス
	4月7日(土)	通年・前期授業開始
		通年・前期開講科目…履修登録締切（正午）
	5月1日(火)	神殿鎮座記念祭（休講）
	5月2日(水)	校内整備（休講）
	5月31日(木)	「修士学位申請論文題目届」提出締切（正午）
	7月16日(月･祝)	「海の日」ですが、通常の授業を実施します
	7月27日(金)	前期授業終了
	7月28日(土)～8月3日(金)	前期補講、集中講義
	7月28日(土)～9月20日(木)	夏季休業
	9月21日(金)	後期授業開始、後期開講科目…履修登録締切（正午）
	9月24日(月･休)	「秋分の日」の振替休日ですが、通常の授業を実施します
	10月8日(月･祝)	「体育の日」ですが、通常の授業を実施します
	11月4日(日)	国学院大学創立記念日
	11月23日(金･祝)	「勤労感謝の日」ですが、通常の授業を実施します
	11月30日(金)	「修士学位申請論文第1次題目届」提出締切（正午）
	12月24日(月･休)	「天皇誕生日」の振替休日ですが、通常の授業を実施します
		年内授業終了
	12月25日(火)～31年1月4日(金)	冬季休業
31年	1月5日(土)	授業再開
	1月8日(火)	「修士学位申請論文」提出締切（正午）
	1月19日(土)	大学入試センター試験会場のため休講
	1月24日(木)	後期授業終了
	1月22日(火)､23日(水)､25日(金)～29日(火)	後期補講・集中講義
	3月15日(金)	学位記授与式

法学会懸賞論文 最優秀賞に降矢さん（4年）

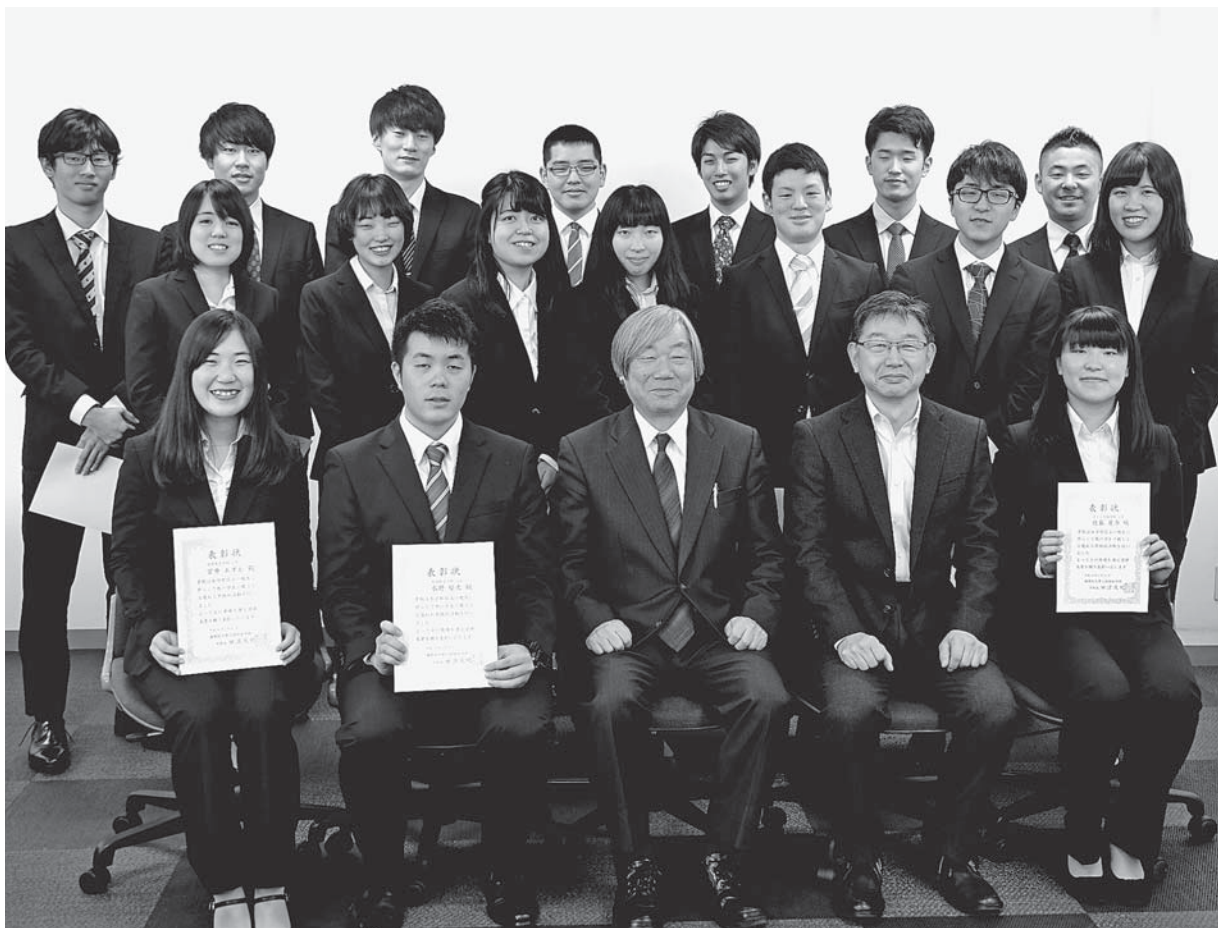
平成29年度法学会懸賞論文　受賞者一覧　（敬称略）

審査結果	氏名	学年	テーマ
最優秀賞	降矢　悠司	４年	口頭弁論終結後の承継人に拡張される既判力の作用
優秀賞	吉永美沙希	４年	日本の取調べ制度改革についての検討 ―改正刑事訴訟法の成立を踏まえて―
佳作	尾崎真美乃	３年	訴因変更の要否について
	北島　真帆	３年	少年審判における被害者等傍聴について
	大沼　知佳	３年	なぜ主夫は増えないのか

本学法学部の教員などで構成される法学会が主催し、同学部生を対象にした懸賞論文の受賞者が決まった。今年度は、法律系17点、政治系13点の応募があった。審査の結果、最優秀賞、優秀賞に各1人、佳作に3人が選ばれた。

授賞式は、2月10日に渋谷キャンパス法学部長室で行われ、受賞者に、法学会理事長の門広乃里子法学部長・教授から賞状と副賞が贈られた。門広理事長は「論文を書くと論理的思考や表現力が高まり、理解も深まる。成果を挙げたことを誇らしく思う」と講評を述べた。

最優秀賞に選ばれた降矢悠司さん（法4）は「今回が自身1編目の論文。一つの主張をまとめることの難しさを痛感した」と、昨年の最優秀賞に続き2年連続の受賞となった吉永美沙希さん（同）は「（最終学年で）やり残さないように考察に挑戦した。納得する論文が書けてよかった」と喜びを語った。



人間開発学部長賞 19人が受賞

平成29年度人間開発学部学部長賞の受賞者が発表され、今年度は19人の同学部生が選ばれた。

授賞式は、1月17日にたまプラーザキャンパスで行われた。受賞者は田沼茂紀人間開発学部長・教授から表彰状と副賞、記念品を受け取った。自転車競技のBMXに長年取り組んできた水野堅太さん（初教4）は「受賞を励みに、『ヒトを育てる人になる』人間開発学部生として、残りの学生生活とこれからの社会人生活を送っていきたい」と受賞者を代表して挨拶した。

同賞は、人間開発学部の理念に基づき、優れた実践的活動を表彰することを目的として、平成23年度に設置され、毎年表彰を行っている。

受賞学生は以下の通り（敬称略）。

◇初等教育学科▼4年▽水野堅太▼3年▽草野真輝▽工藤駿▽山口航▼2年▽遠藤真由▽加藤真優子▽鈴木佳奈▽宮井あすか

◇健康体育学科▼3年▽小林径加▽武井直也▼2年▽小杉山京▽高際紗良▽中野里穂▽山本晃平

◇子ども支援学科▼4年▽佐藤麗奈▼3年▽麻生航太▽山本容慈▼2年▽有川天弥▽澤井隼人

学内ワークスタディー報告会 活動を通じた成長を語る

学内のさまざまな事業や授業、学生生活を支援する学内ワークスタディー各団体による報告会が2月7日、渋谷キャンパスで行われた。現在、本学では学生が履修相談に対応するエルダーサポーター、聴覚に障がいがある学生に授業の要約筆記を行うノートテイカーなど8つの団体が活動をしている。

報告会では、各団体の1年間の活動を報告したほか、今後に向けた課題などを代表学生が発表。「マネジメント能力がついた」「学部や学年を超えて仲間が増えた」など活動を通じた成長や喜びを口にする学生もいた。

地域ヘルスプロモーションセンター 生きがい講座　スポーツ心理学を学ぶ

地域ヘルスプロモーションセンターが主催する生きがい講座2017が1月27日にたまプラーザキャンパスで開かれた。今回は、伊藤英之人間開発学部助教が「勝つための心理学～競技力向上と実力発揮～」と題して講演。スポーツ場面での望ましいメンタリティーの作り方や、体力や技能を向上させるための流れについて紹介した。

会場には、地域住民のほかに、体育部会の部員・指導者も集まり、競技生活に生かそうと、熱心に耳を傾けた。

交換留学生、所定の学修終え 離日へ　国際交流送別会

1月で本学での学修を終えた大学院交換留学生7人の国際交流送別会が1月26日、渋谷キャンパス有栖川宮記念ホールで開かれた。留学生らのサポートを行ってきたK-STEPアシスタントの学生、教職員らが参加し、彼らとの別れを惜しんだ。

帰国する留学生たちは「この1年間学んだことを忘れません」「また国学院大学に戻ってきたいと思います」などと、離日を前に心境を語った。

国際交流バスハイク 早春の茨城・栃木で親睦深める

学生部が主催する国際交流バスハイクが2月9日に行われた。留学生10人を含む学生約40人は、早春の茨城・栃木の両県に日帰りバス旅行へ。笠間稲荷神社を参拝したほか、名産の益子焼絵付け体験や旬のイチゴ狩りで親睦を深めた。

院友会「新年院友交歓会」

国学院大学院友会による恒例の「新年院友交歓会」が１月20日、院友会館大ホールで行われた。挨拶に立った吉田茂穂会長は「院友は若木育成会、関係の皆さんと手を携えて、法人・大学が掲げる『国学院ブランドの確立と強化』に一緒に取り組んでいかないといけない」と述べた。

懇談の途中では、院友会による学術・スポーツ振興基金の目録贈呈や恒例の福引き大会が行われた。

税理士試験　３人が合格

平成29年度（第67回）税理士試験の結果が、昨年12月15日に発表された。本学関係者では大学院生１人、修了生２人が難関を突破した。

１月20日には渋谷キャンパスで合格者の祝賀会が開かれ、多くの教員や卒業生、後輩の大学院生が集まった。本学大学院経済学研究科では、22年度にキャリアコースを開設して以来、今年度までに27人の税理士試験合格者を輩出している。

合格者の一人、萩生田宗司さん（平28修・124期博前経）は「合格して安堵感がある。資格の重みを感じ、本学の修了生として恥じないように頑張りたい」と心境を語った。

院友・奥さんのスマイリーアース「ものづくり日本大賞」経産大臣賞受賞

スマイリーアース代表取締役社長で院友の奥龍将さん（平23卒・119期日文）**＝写真左から２人目＝**が、第７回「ものづくり日本大賞」（経済産業省など主催）の経済産業大臣賞に選ばれた。受賞した活動は「ウガンダ共和国と日本を繋いできた絆の継承により創出された『循環型環境ストレスフリーを実現したタオル生産プロセス』」。表彰式は、２月５日に都内で行われた。

同社は、日本のタオル製造発祥の地である大阪府泉佐野市で自然との共生社会を目指すブランド「真面綿」を製造している。

（スマイリーアース提供）

特別支援学校生のサッカー大会を支援

神奈川県特別支援学校体育連盟が主催し、本学とＮＰＯ法人アクティブスポーツが運営支援をする第25回特体連サッカー冬季大会が、１月27日と２月３日に本学相模原グラウンドで開催された。

試合はトーナメント方式で行われ、参加した神奈川県内特別支援学校の生徒たちは、多くの保護者や関係者の声援を受けながら、日頃の練習成果を発揮した。

連携を推進した学校法人国学院大学の佐柳正三常務理事は「共生する地域社会の実現には、教育機関である大学が果たす役割も大きい。今後も連携を深めていきたい」と語った。

経済学会懸賞論文 最優秀賞に安達さん（経営４）

平成29年度経済学会懸賞論文　受賞者一覧　（敬称略）

審査結果	氏名	所属	テーマ
最優秀賞	安達　圭音	経営４	米のブランド化の効果とその課題
優秀賞	出口　直人	経　４	CSV経営に関する批判的研究
	澤田　　凌	経ネ４	改葬ビジネスの動向～終活ビジネスの拡大を背景に～
	倉橋　　弾	経　４	敵対的買収の財務分析
佳作	津村　　唯	経営３	変化するカフェ業界とサードウェーブ企業の台頭
	戸田　優香	経営３	
	二宮みずほ	経営３	
	会田　優介	経　３	予備校ニーズ減少の背景と時代に対応する指導形態 ―市場の落ち込みに対応する戦略―
	島田　大成	経営３	
	渡邊　杏奈	経営３	
	藤枝　彩恵	経　４	IFRSのリース会計基準変更による航空業界への影響
	池田優香里	経　４	成功し続けるSPA企業の財務的特徴
	小松由芽子	経営４	銀行業の繰延税金資産の実態 ―りそな銀行の国有化問題に着目して―
特別賞	萩原　甲斐	経　３	渋谷区のバリアフリー基本構想策定への提言
	川口　遥夏	経営３	
	吉田　啓貴	経ネ３	
	倉田　航輝	経営３	日本における多文化社会に向けて ～神奈川県央地域での外国人に対する対応をモデルとして～
	寺内　鷹生	経営３	PlayStation３の販売台数回復とその背景
	峰　　尚弘	経営３	

本学経済学会が主催する「経済学会懸賞論文」の今年度の受賞者が決定し、１月23日に表彰式が行われた。

この懸賞論文は、経済・経営・会計など（経済ネット各コースも含む）に関するテーマで、経済学部生を対象に昨年12月上旬に募集を行った。今年度は23件の応募があり、経済学部全教員による厳正な審査のもと、最優秀賞１本、優秀賞３本、佳作５本、特別賞３本が選出された。

表彰式では、経済学会の橋元秀一会長（経済学部長・教授）が「社会に出るこれからが本番で力が試される。成果を存分に発揮してほしい」と、院友経済会の大塚勤会長（昭41卒・74期政経）が「（懸賞論文表彰の）実績に自信をもって、社会で活躍してほしい」と学生たちの努力をたたえた。受賞論文の講評に続き、受賞者には賞状と副賞が手渡された。

山形、青森両県のブランド米についての研究考察をまとめた「米のブランド化の効果とその課題」で最優秀賞に輝いた安達圭音さん（経営４）は「（論文制作では）大変なこともあったが、興味があるテーマだったので楽しみながら書き進められた」と喜びを語った。

学問ノ道 第６回

◉吉田神道研究に先鞭

国学院出身の神職・神道学者 江見清風

『国学院雑誌』は、明治27年（１８９４）に、「国史国文の普及を計」ること、「深くこの学問を研究して、其の新彩を発揮する」ことを目的として発刊された（『国学院雑誌』第１巻１号「発刊の趣旨」）。

明治44年、江見清風（１８６８～１９３９）は、同誌17巻に12回にわたって「唯一神道論」を連載する（１号～12号）。

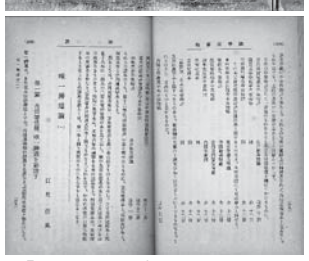
江見は、明治元年（１８６８）、新潟市に生まれ、24年に国学院選科に入学した人物である。国学院は23年に皇典講究所が設立した学校で、国史・国文・国法を教え、あわせてその研究・応用に必要な諸学科を修めることを目的とする。当時、講師には、小中村清矩、落合直文らがいた。江見はこのような環境で学んだ。27年に卒業（２期）すると、翌年には現在の東京大学史料編纂所に入る。28年には彌彦神社宮司となり、その後、神宮禰宜、八坂神社宮司、明治神宮権宮司、春日神社（現在の春日大社）宮司などを歴任した。

「唯一神道論」は、室町時代に吉田兼倶（１４３５～１５１１）によって創唱・大成された吉田神道（唯一神道）の成立と展開を論じたものである。吉田神道研究に先鞭をつけた同論文は、彼の没後に刊行された論文集『神道説苑』（昭和17年、増補版：18年、ともに明治書院）に「吉田家の吉田神社に於ける奉仕並に其の信仰の一斑」（『神社協会雑誌』37巻６号、13年に掲載）とともに収録されている。

この他、論文は多いが、著書に『神社者国家之宗祀也』（聖訓奉旨会、大正４年）がある。神道史学者の宮地直一は、江見の研究を「国史と国文との両面を綜合した上に立つ」ものとし、伊勢神道（度会神道）研究に先鞭をつけたことでも評価している（『神道説苑』「刊行の由来」）。

このように江見は、本学出身の神職であると同時に神道学者でもあった。

研究開発推進機構准教授　大東敬明



「唯一神道論」
（『国学院雑誌』第17巻１号）

江見清風（『神道説苑』より）

学生リアル調査

平成29年度

学生のプライベートが明らかに ―今年度新規追加項目から見えてきたこと

本学では、学生を対象とした大規模調査「学生リアル調査」を毎年行っている。今年度は、本学学部生1万190人を対象に、昨年11月7日から23日までの期間で、インターネットによる調査を実施。全学生の40%を超える4119人から回答があった。

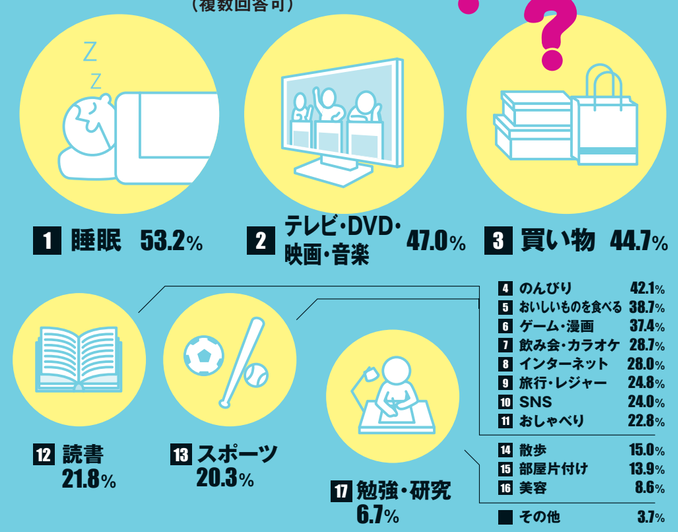
平成26年度から始まった同調査は今年度で4年目となり、在学生にも調査が浸透しつつある。今回の設問数は36問。経年変化を把握するために、質問内容は大きく変化していないが、今年度はその一部を変更。キャンパス内では把握しきれない学生の行動実態に関する調査項目を取り入れた。また、近年はワードクラウドや共起ネットワークと呼ばれる自由回答の文字データを解析するツールも発達してきていることから、自由回答の項目についても今年度から分析を行うこととなった。主な分析結果は以下の通り（小数点第2位以下は四捨五入）。

国大生はアウトドア？インドア？

在学生がオフの時にどのような気分転換を行っているのか調査を行った。上位3項目のうち、睡眠（1位・53.2%）、テレビ・DVD・映画・音楽（2位・47.0%）と、自宅でできる気分転換を回答する学生が多く、外出して行う気分転換は、買い物（3位・44.7%）となった。一方で、回答率は低かったが、読書（21.8%）、スポーツ（20.3%）、勉強・研究（6.7%）など、自己研さん型の気分転換を回答した学生も一部にあった。

オフの時の気分転換方法

（複数回答可）

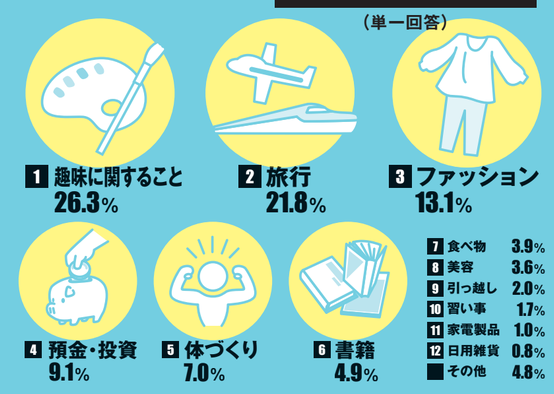


意外と堅実な学生

一番欲しいもの（したいこと）に関する項目では、趣味に関すること（26.3%）、旅行（21.8%）、ファッション（13.1%）の回答が多かった。一方で預金・投資（9.1%）、体づくり（7.0%）、書籍（4.9%）が続き、将来を見据えた準備や自己研さんに励む学生も一定数いることがわかった。

一番欲しいもの・したいこと

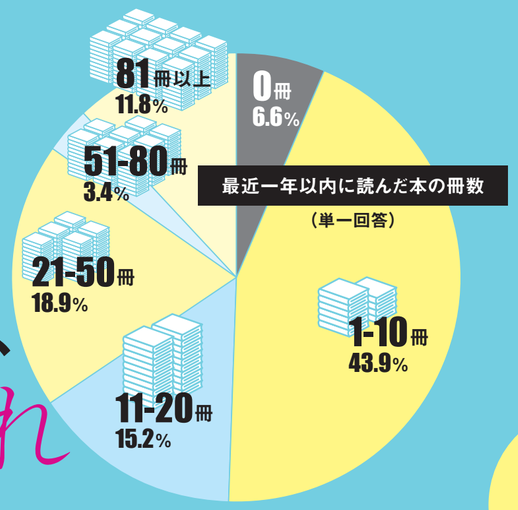
（単一回答）



ネットが圧迫、読書離れが深刻に

今年度から学生の読書実態を把握するために、年間に読んだ本の冊数も調査した。ここではあえて、漫画・雑誌なども含んで調査を行ったが、年間21冊以上の本を読んでいる学生は全体の約3分の1にとどまり、しかも、1カ月1冊のペースにも満たない学生が過半数といった結果となった。特に1冊から10冊のカテゴリーに入る学生も内訳を細かく見ていくと約60%の学生は年間読書数が5冊以内であり、2カ月に1冊も読んでいないことがうかがえた。

また、読んだ本の内訳を見ると、意外にも漫画や雑誌を読む学生も少なく、休刊が相次いでいる雑誌・漫画業界の深刻さを裏付ける結果となった。一方で、前述の「オフの時の気分転換方法」を見ると、ゲーム・漫画が37.4%、インターネットが28.0%、SNSが24.0%と、オンラインゲームやSNSなど、インターネットが普及した現代ならではの余暇の過ごし方を選択する学生も多く、インターネットに読書時間が圧迫されているといった見方もできる。



忙しい国大生

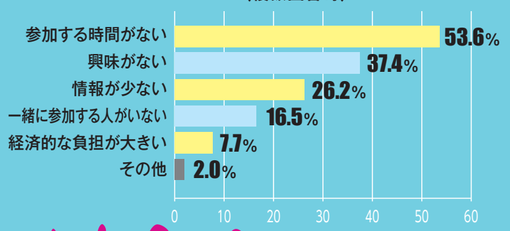
最近では、2020年東京五輪・パラリンピックなどの影響もあってか渋谷駅周辺でもボランティア活動をしている人を多く見かける。本学でも平成26年にボランティアステーションを立ち上げ、さまざまなボランティア活動に本学学生が参加できる体制を整えつつある。そこで今年度調査から在学生のボランティア参加の実態を把握するための項目も追加した。

参加したことがないと答えた学生は65.2%と圧倒的に多かったものの、3割以上の在学生は参加経験ありと答えた。

一方で、参加しなかった学生に不参加の理由をたずねたところ、参加する時間がないと答えた学生が過半数となり、興味がないと答えた学生を16.2ポイント上回った。別の項目では1週間の時間の過ごし方も調査したが、現在の学生は、アルバイトや課外活動など授業以外の活動も多いことが分かっていて、ボランティアに興味はあるが、それに費やす時間がないことが現状のようだ。しかし、他の設問回答では、インターネットやSNSなどの「隙間時間」を利用した過ごし方もあり、今後はちょっとした時間でも参加できるボランティアを学生に提案してもよいのではないだろうか。

ボランティアに参加しなかった理由

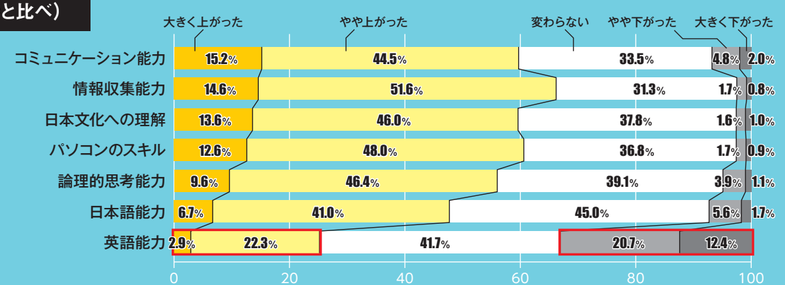
（複数回答可）



国大生が得たもの失ったもの

能力の変化（入学時と比べ）

（単一回答）



昨年度から追加された能力変化を問う項目は、今年度新たにコミュニケーション能力と日本文化への理解を追加した。また、文章力は日本語能力とし、書くだけにとどまらず読む力も包含した内容へと変更した。

結果としては、コミュニケーション能力や、情報収集能力、パソコンのスキル、論理的思考能力など、ゼミや演習・PBL（課題発見）型授業など双方向性が求められる大学ならではの授業によって身につくスキルが向上していた。しかし、本学の大きな特徴である日本ならではのスキルについては、日本文化への理解は上がっているが、日本語能力は上がったと答えた在学生が半数に届かない結果となった。そして、英語能力は下がった・やや下がったと答えた在学生（33.1%）が、大きく上がった・やや上がったと答えた学生（25.2%）を上回り、本学の語学力向上に向けた取り組みが急務であることが改めて浮き彫りとなった。

まとめ ―人生のヒントは読書から

本号で紹介できた分析結果は調査全体ではほんの一部であるが、紹介した一部の項目を見ても、在学生の生活様式は10年前とは様変わりしていることは明らかである。確かに読書離れは深刻ではあるが、インターネットやSNSで文字を使ったコミュニケーションは頻繁であるため、一概に「読書離れ＝活字離れ」とは言い難いのも事実である。今後は、短文から長文へ、バーチャルからリアルへ、稚拙な表現方法から秀逸な表現方法へ、いかにして転換していくのか、大学として真剣に議論していくことが求められていくのではないだろうか。そして、在学生の皆さんは、普段のほんの少しの時間を本に費やす努力をしてほしい。これから数年後には社会に出ていくことになるが、社会人は必ずどこかで人生の岐路に立たされる。岐路に立たされた時に、「何が道しるべとなるのか」「何が自分を助けてくれるのか」。それは学生時代に読んだ一冊に書かれていた何げない一言かもしれないし、新聞記事に載っていた小さな投書欄かもしれない。

今年4月には、みちのきKokugakuin Book Projectが編集した『私の一冊』が刊行される。同書は著名文化人や企業経営者が大学生に薦める一冊がまとめられている。現代日本をけん引する人々がバイブルとしている本は何か。在学生の皆さんは、ぜひ『私の一冊』を読み、今年自分が読むべき本を探してみてはいかがだろうか。また、我々は今後、フリーワードの分析などを行いつつ、本学学生にとって何が課題なのか、より掘り下げて学生のリアルなライフスタイルを調査していきたい。

大学IR推進連絡協議会第2分科会

博物館 学芸員の資料ファイル No.10

今月の資料 有栖川流書道

時代：江戸時代から明治時代

有栖川宮家は歌道と書道を家の学問とし、歴代天皇の和歌と書の師範を務めました。書道は第5代職仁（ヒト）親王が基礎を固め、第8代幟仁（ヒト）親王の代に「有栖川（アリスガワ）御流（ゴリュウ）」が確立されました。皇典講究所初代総裁となられる幟仁親王は明治天皇の書道師範であり、明治維新の際には「五箇条の御誓文」を勅命により揮毫しました。本学では江戸中期から明治期に至る有栖川宮家歴代の筆跡を収蔵しています。

展示案内：有栖川流書道に関する資料は、博物館の常設展示（校史展示室）でご覧いただけます。

ウェブサイト案内：http://museum.kokugakuin.ac.jp/

インフォダイジェスト

…… 在学生　…… 卒業生　…… 一般　…… 受験生
■内容　■日にち　■時間　■場所　■対象　■申し込み　■料金　■問い合わせ

大学からのお知らせ

今冬の豪雪で被災された学生・保護者の皆さまへ

■豪雪により災害に遭われた皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変によって今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は保証人（保護者ら）と相談のうえ、大学各窓口までご相談ください。
■内閣府の防災情報ページ（http://www.bousai.go.jp/taisaku/kyuujo/kyuujo_tekiyou.html）で確認を
■▶学生生活課
（☎03・5466・0145）
▶たまプラーザ事務課
（☎045・904・7705）
▶大学院事務課
（☎03・5466・0142）

新年度オリエンテーション

■学部・学科・学年ごとに新年度オリエンテーションを実施します。在籍確認シール交付、履修相談などが行われます。日程・場所は学内掲示やＫ－ＳＭＡＰＹなどで確認を。
■３月31日㈯～４月６日㈮

新年度前期授業開始・履修登録

■授業開始＝４月７日㈯、履修登録＝４月１日㈰～10日㈫
※日程は本学ホームページ・時間割表で確認してください

新年度科目等履修生出願書類を配布

■平成30年度の出願期間は３月14日㈬～16日㈮。出願の概略・募集要項は本学ホームページを参照してください。
■３月７日㈬～
■教務課窓口
■教務課（☎03・5466・0378）

学生定期健康診断

■全学生を対象に学生定期健康診断を毎年実施しています。在校生は必ず受診してください。
▶渋谷キャンパス
■４月９日㈪～14日㈯
■文・法・経済・神道文化学部の新２～４年生
■若木タワー地下１階 で受け付け
▶たまプラーザキャンパス
■３月31日㈯、４月２日㈪
■人間開発学部の新２～４年生
■１号館411教室で受付
※日時は、保健室ホームページなどで事前に確認を。新入生には「オリエンテーション案内」で詳細を伝達
■保健室（☎03・5466・0148）

イベント

平成30年度 入学式

《大学院》
■４月２日㈪
■13時～
■渋谷キャンパス常磐松ホール
《学部・専攻科・別科》
■４月１日㈰
■▶文学部・神道文化学部・人間開発学部・専攻科・別科＝10時45分～
▶法学部･経済学部＝13時45分～
■グランドプリンスホテル新高輪「飛天」

博物館

■無料
■10時～18時（入館は17時30分まで）
※３月１日㈭・12日㈪は休館

企画展「吉田家：神道と典籍を伝えた家～国学院大学図書館所蔵 吉田家旧蔵資料～」

■室町時代後期、吉田兼倶によって大成された吉田神道。これは吉田家に伝わった古典学や神道学を基礎にしていました。本展では、未公開資料を含む吉田家旧蔵の古典籍、古文書、絵画を公開します。
■３月３日㈯～４月15日㈰
■博物館企画展示室

ミュージアムトーク 連続ミニ講座

■企画展に合わせて、文学・歴史学・神道の各分野から吉田家の残した事績を解説します（申込不要・無料）。
■各13時30分～14時
■博物館ホール
▶ 第１講：３月３日㈯
■「吉田家と吉田神道」岡田荘司神道文化学部教授
▶ 第２講：３月10日㈯
■「『日本書紀』注釈と吉田家」渡邉卓研究開発推進機構助教
▶ 第３講：３月17日㈯
■「天下人と吉田家」堀越祐一文学部兼任講師
▶ 第４講：３月24日㈯
■「奈良絵本の神々」針本正行文学部教授
▶ 第５講：４月７日㈯
■「吉田家の近世文書」根岸茂夫文学部教授
▶ 第６講：４月14日㈯
■「国学院大学と吉田神道研究」大東敬明研究開発推進機構准教授

※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

キャリアサポート

学内合同企業説明会

■本学学生を採用する意欲が高い優良企業を学内に招き、採用担当者から直に話を聞くことができます。毎年、この説明会をきっかけに内定を獲得する学生がいますので、この機会に自分に合ったオンリーワン企業を探しましょう！
■３月６日㈫～８日㈭
■終日（入退場自由）
■３年生
※詳細確認・申し込みはＫ-ＳＭＡＰＹのキャリアサポートシステムから

ＬＬＣ

ＴＯＥＩＣ® 学内テスト

■ＬＬＣが団体受験特別制度（ＩＰ：Institutional Program）として実施するものです。公開テストとＩＰテストのスコアの有効性はＴＯＥＩＣ主催団体により同一とされています。
※企業、大学などにより基準が異なる場合もあります
■３月14日㈬
■14時30分集合、17時15分解散（実際の試験時間は２時間）
■渋谷キャンパス（教室は試験１週間前をめどにお知らせします）
■3500円
■２～４年、大学院生（先着順250人）
■３月１日㈭までに、証明書自動発行機で証紙を購入し、各キャンパスのＬＬＣに提出
■▶渋谷：ＬＬＣ（学修支援センター相談室〈３号館3306教室〉。㈪～㈮10時～18時〈12時50分～13時50分を除く〉）
▶たまプラーザ：ＬＬＣＹＯＫＯＨＡＭＡ　ＯＦＦＩＣＥ（１号館304教室、㈪㈭㈮10時～18時）
※春季休暇中は開室時間が異なるので大学ＨＰで確認を

本紙へのご感想をお待ちしています

「国学院大学学報」では、読者の皆さまからのご意見・ご感想を募集しています。今後、定期的に本紙にて「読者の声」を紹介していく予定です。掲載された方には、本学オリジナルグッズを進呈いたします。ご投稿は以下の要領でお願いします。
①今号の満足度５段階（低１～５高）②本紙へのご意見③住所④氏名⑤所属など（在学生の場合〈学科・学年〉、保護者、院友〈本学卒業生〉、本学・本法人教職員、その他いずれか）を明記の上、はがき・ＦＡＸで国学院大学広報課（連絡先は１面参照）までお送りください。また、ＱＲコードよりＥメール作成画面を開くことができます。なお、お送りいただいた方の個人情報は法令に基づいて取り扱いいたします。
※お寄せになられた原稿・お便りは返却いたしません

ただ学問の力なり

若木が丘だより

神道文化学部教授
岡田 荘司

本学入学から半世紀を超え、来春「平成」の終わりとともに定年を迎える。この間、年を経るごとに「学問の力」に接してきた。

若い頃（昭和50年）、奈良県の天理図書館で中世神道思想の開始を著述した『中臣祓記解』（『訓解』の異本）を見つけ出した。大学に戻ると卜部神道出身の梵舜の自筆になる同書が図書館に所蔵されていた。まさに「灯台下暗し」である。学問は暗中模索からはじまる。

古代からつづく祭祀氏族の卜部氏は、『日本書紀』『古事記』『古語拾遺』など、数々の古典籍を継承してきた。卜部氏が存在しなかったら、古代から伝えられてきた精神文化を受け継いでいくことは難しかったといえるだろう。

その卜部氏と吉田神道の企画展「吉田家：神道と典籍を伝えた家」が国学院大学博物館において、３月３日から４月15日まで開催される。図書館に所蔵されてきた卜部氏（吉田家）の神道典籍などが、はじめて一堂に公開展示される。

卜部氏といえば、鎌倉末・南北朝期に生きた『徒然草』の著者である卜部兼好もその一族（近年、否定する意見もあるが）である。兼好は学問について、つぎのように述べる。

人より優れた人物になるためには、学問をすることが肝要であるとされ、「道を学ぶとならば、善に伐らず、輩に争ふべからずといふ事を知るべき故なり、大きなる職をも辞し、利をも捨つるは、ただ学問の力なり」（二三〇段）とある。

なぜ道を学ぶのか、それは良い行いを自慢せず、同僚と争ってはいけないことを知ることであるという。そして、重要な職をやめ、大きな利益を捨てるのは、学問の力によると。

人生の最後に残るのは、学問の蓄積であり、そのために学生時代から学問の道筋を模索し、日々を大事に生きることが大切である。学問とは、人類にとって崇高な生きる糧といえよう。

陸上競技部

土方選手 丸亀ハーフ 日本人学生3位

香川・丸亀国際ハーフマラソンが2月4日、丸亀市のＰｉｋａｒａスタジアムを発着するコースで行われ、陸上競技部の土方英和選手（健体２）がハーフマラソン初挑戦で１時間２分47秒、総合19位、日本人学生で３位に入った。長谷勇汰選手（史３）は61位（１時間４分40秒）だった。

卒業生の成績は、蜂須賀源選手（コニカミノルタ、平29卒・125期健体）が18位、寺田夏生選手（JR東日本、平26卒・122期健体）が23位、荻野皓平選手（富士通、平24卒・120期法）が47位、畑中大輝選手（中電工、平29卒・125期経）が56位だった。

浦野選手　都道府県対抗駅伝 富山代表として出場

第23回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会が１月21日、広島市の平和記念公園前を発着点に行われ、陸上競技部の浦野雄平選手（経営２）が富山県代表として出場した。

３区（8.5㎞）を任された浦野選手は、38位でタスキを受けると、14人を抜く区間15位の力走で、一気に順位を24位まで上げた。同県は総合30位でフィニッシュし、前回の41位から順位を大きく上げた。

柔道部

日本代表選手と合同稽古

井上康生監督率いる柔道日本代表男子（60kg級～81kg級の４階級）強化合宿が１月８日から12日まで、たまプラーザキャンパス柔道場で行われた。

井上監督らの指導の下、強化選手たちが連日、汗を流した。強化合宿には本学柔道部員も参加。昨夏のユニバーシアード競技大会で優勝し強化選手にも選ばれている藤阪泰恒選手（健体３）も積極的に強豪たちと稽古に取り組んだ。

卓球部

全日本卓球選手権大会 4種目に部員が出場

天皇杯・皇后杯 平成29年度全日本卓球選手権大会が１月15日から21日まで東京体育館で行われた。本学卓球部からは男女シングルスと女子ダブルス、混合ダブルスに延べ19人の選手が出場した。成績は、混合ダブルスの笹原竜太選手（経ネ３）・長尾真由選手（同）ペアの３回戦進出が最高だった。

万葉エコBee

小児がん医療支援に寄付

たまプラーザキャンパスで養蜂活動を行う万葉エコBeeプロジェクト（万葉エコBee）が１月11日、小児がん支援を行うレモネードスタンド普及協会に対し寄付金の目録を贈呈した。

レモネードスタンド活動は、レモネードの販売収益を小児がん支援のために寄付するもの。活動を進める同協会は、本法人が連携協定を結ぶサッポロHD傘下のポッカサッポロが支援している。万葉エコBeeは、昨年2度にわたり自らが採取したハチミツを使ったレモネードを販売。収益は３万3000円余りになった。寄付金は日本小児がん研究グループでの治療開発に役立てられる。

K SPIRITS ― 準硬式野球部 立石航己選手（経3）―

新天地で背負った「日の丸」 将来は指導者に

本学の準硬式野球部に所属する立石航己選手（経３）＝捕手＝は古豪、横浜市立横浜商業高校の出身で、硬式野球からの転向組だ。昨年は東都大学準硬式野球連盟の選抜選手として「日の丸」を背負って海外遠征を経験した。新天地で成長を遂げた３年間を振り返ってもらうとともに、将来の夢を聞いた。

――同じ野球でも、花形の硬式から準硬式へ転向することに葛藤は

立石選手（以下、立石）　ありませんでした。真剣に野球に取り組める最後のチャンス。野球を続けられる環境を与えてもらえるならば、やり尽くして結果を出すぞ、という気持ちでした。

――海外遠征の感想は

立石　インドネシアに野球を普及させることを目的とした遠征でした。デコボコで水たまりだらけという悪条件の中でしたが、現地の人たちから野球が楽しくて仕方がないという気持ちが伝わってきて、野球を始めた頃の初心を思い出しました。

――将来の夢は

立石　民間企業に就職し、中学生のクラブチームでボランティアとして野球指導に携わりたいです。海外遠征での野球教室や、帰国後も現地の人と連絡を取り合って続けている指導の経験が生かせると考えています。

◇

インタビューの詳細は、本学ホームページ内「国学院メディア」に掲載。

若木学友会　29年度予算など承認

若木学友会（会長・赤井益久学長）は、昨年７月26日に役員会を開催し、平成28年度決算と29年度予算を承認した。

同会は、学生の文化活動、体育活動などにおいて人格の陶冶や健全な身体の発育、人間性の向上を図ることを目的に26年度に発足した。

表1 平成28年度 若木学友会 決算

(期間:平成28年4月1日～平成29年3月31日)

（単位:円）

収入の部

科目		予算	決算	増減
会費収入	入会金	2,678,000	2,678,000	0
	会費	54,521,100	55,554,600	▲ 1,033,500
	特別会員（役職教員）	74,200	90,100	▲ 15,900
	特別会員（役職職員）	36,000	146,000	▲ 110,000
	協賛金（代表指導者）	197,000	232,000	▲ 35,000
	協賛金(一般)	0	117,000	▲ 117,000
前年度繰越金		4,483,420	4,483,420	0
合　計		61,989,720	63,301,120	▲ 1,311,400

支出の部

科目		予算	決算	増減
援助費	自治会	2,493,645	2,493,645	0
	文化団体連合会	15,554,197	15,554,197	0
	体育連合会	25,465,352	25,465,352	0
	新聞学会	1,791,661	1,791,661	0
	全学応援団	3,105,546	3,105,546	0
	若木祭実行委員会	6,868,035	6,868,035	0
	若木体育祭実行委員会	2,090,272	2,090,272	0
	同好会連合会	1,879,000	1,879,000	0
	非加盟各部会	1,600,000	1,210,000	390,000
	個人活動	270,000	120,000	150,000
返還費		349,600	13,000	336,600
予備費		522,412		522,412
次年度繰越金			2,710,412	▲ 2,710,412
合　計		61,989,720	63,301,120	▲ 1,311,400

表2 平成29年度 若木学友会 予算

（単位:円）

収入の部

科目		予算	前年度予算	増減
会費収入	入会金	2,493,000	2,678,000	▲ 185,000
	会費	53,249,100	54,521,100	▲ 1,272,000
	特別会員（役職教員）	74,200	74,200	0
	特別会員（役職職員）	36,000	36,000	0
	協賛金（代表指導者）	197,000	197,000	0
	協賛金(一般)	0	0	0
前年度繰越金		2,710,412	4,483,420	▲ 1,773,008
合　計		58,759,712	61,989,720	▲ 3,230,008

支出の部

科目		予算	前年度予算	増減
援助費	自治会	2,500,000	2,493,645	6,355
	文化団体連合会	14,461,237	15,554,197	▲ 1,092,960
	体育連合会	23,675,867	25,465,352	▲ 1,789,485
	新聞学会	1,665,612	1,791,661	▲ 126,049
	全学応援団	2,887,061	3,105,546	▲ 218,485
	若木祭実行委員会	6,384,847	6,868,035	▲ 483,188
	若木体育祭実行委員会	1,943,214	2,090,272	▲ 147,058
	同好会連合会	1,879,000	1,879,000	0
	非加盟各部会	1,600,000	1,600,000	0
	個人活動	270,000	270,000	0
返還費		200,000	349,600	▲ 149,600
予備費		1,292,874	522,412	770,462
合　計		58,759,712	61,989,720	▲ 3,230,008

オトナの銘

学問の師や人生の先輩たちが目指す理想の姿とは。彼らの人生を支える言葉とともに、目標とする大人像と人生観を取材する。今回は人間開発学部の吉永安里准教授と、ジャーナリストとして数々の危険地帯を取材している院友の丸山ゴンザレスさんから話を伺った。

一を聞いて十を知る（『論語』より）

吉永安里さん（人間開発学部准教授）

言語発達と国語科教育を専門とする吉永准教授は、幼稚園と小学校の現場で培った経験を学生たちに日々伝えている。人との縁を何より重んじてきた吉永准教授に、その生き方を聞く。

――「一を聞いて十を知る」を座右の銘にしたきっかけは何ですか？

吉永准教授（以下、吉永）　中学校古典の授業で論語を教わった際に、強く印象に残った言葉です。この言葉は孔子の弟子の子貢が、同じく弟子の顔回を「彼は一を聞いて十を知ることのできる人物だ」と褒めたことに由来します。「それほどまで評価される人、顔回のような人に少しでも近づきたい」と憧れの気持ちをもったことがきっかけでした。

――この座右の銘が生きた場面を教えてください。

吉永　学生の頃、周りは言われたことをそのままやる人が多かったのですが、私はこの言葉を大切にして、一を聞いたらそのことを二にも三にも十にもいろいろなこととつなげたり、深めたりして考えよう、行動しようと心がけていました。そのような姿を認めてくださった方々がさらに私の世界を広げてくれました。中には、「海外の幼稚園の現場を知っておいで」と、オランダの現地幼稚園で学ぶ機会を与えてくださった方もいました。これは本当に貴重な経験となり、言ってみれば、十を知ろうとして動いた結果、さらなる「十を知る」機会をいただけたのです。よく考えて、動いて、十を知ろうとする姿勢を評価してくださる方がいて、その支えのおかげで、今までの私の人生があると思います。人とのつながりを大事に、今後も生活していくつもりです。

――最後に学生に向けて一言お願いします。

吉永　これからの時代、得られた情報をうのみにし、これまでやってきたことを繰り返すだけでは生き残っていけません。1つのことを他の情報や自分の知識・経験と関連付け、解釈し、発信する力、まさに「十を知る」力が求められています。主体的に学びを広げ、深め、成長していってください。

〈取材〉後藤

割に合わないところにはライバルはいない

丸山ゴンザレスさん（ジャーナリスト、平13卒・109期史、平15修・111期博前史）

南米や東南アジアのスラムなど、危険地帯をジャーナリストとして取材する丸山さん。旅行ガイドから裏社会、国際犯罪まで、多岐にわたるテーマの著作がある。1月には、自身による原作で、渡辺大樹さん作画の『鳥居准教授の空腹』（幻冬舎コミックス）が発売された。丸山さんが「今」の危険地帯を取材する理由には、国学院での学びがあった。

――なぜ危険地帯へ行くのでしょう。

丸山さん（以下、丸山）　まず、危険な場所へ行くためには膨大な労力を必要とします。事前のリサーチ、長時間の移動、現場では命を危険にさらしながら取材しています。その見返りは、必ずしも釣り合いがとれているとはいえません。大抵の人は自ら進んでやろうとは思わないでしょう。それでも、行くことで得られるものがあるのです。一見矛盾しているようですが、割に合わずに他人が行かないから、自分だけの発見があると思うのです。見たいという好奇心、それ以外に僕の身体を動かしているものはありません。

今世界では何が起きているのか、今自分は何を見たいのか…。「今」を基準にした感情を大切にしています。

――今の丸山さんを形成している国学院での学びなどから、学生に伝えたいことをお願いします。

丸山　知識は知恵になります。社会人になってから、大学で学んだ知識が直接役に立つ場面は少ないかもしれません。しかし、身に付けた知識は汎用的なノウハウとしての知恵になって助けてくれるはずです。僕の場合、知恵のベースは考古学です。膨大な知識や情報から仮説をたてて証明するのが考古学ですから、ジャーナリストをする上での考え方と共通するところがありますね。

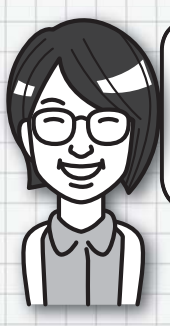
――ありがとうございました。

〈取材〉柳下

学生記者のリポ

テーマ　雪の日の思い出

2月4日は立春。暦の上では春ですが、まだ寒い日が続いていますね。メンバーに雪の日の思い出について聞きました。

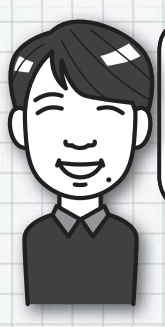


今年の冬、積もった雪で作ったこくぴょんの雪だるま。私の身長に近いサイズに！

石原　礼菜（日文1）

中学生のときの白熱した雪合戦。ふと気がついた時には周りに多くの観衆が！

尾澤　桃子（法3）

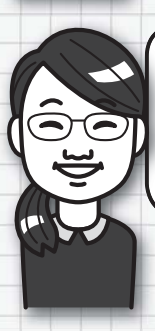


中学生のころ、友達と協力して巨大かまくら作り！看板までつけて大満足

後藤　哲治（日文2）

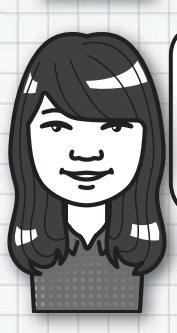
中学生のとき、人のいないゲレンデでコースを間違えて、慌ててしまった

鈴木　亜美（日文1）



初めてのスキーで、リフトから降りるタイミングが難しかった…

永井　伶奈（日文4）

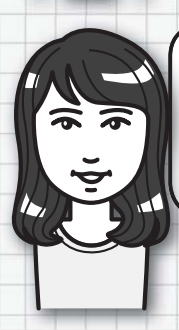


一昨年、11月の降雪という異常気象で電車が大幅遅延。4限の授業にも間に合わず…

本間　由（日文3）

3歳のとき、家族で行ったスキー場で初めて口にした雪の味は忘れられない

柳下　桂一郎（史3）



中学生のとき、普段は自転車で30分のところ2時間以上もかけて友達と歩いて通学

山本　莉紗子（外文2）

K SPIRITS

国大生アーティスト　いつみさん（日文3）

「ギター1本持って どこにでも行けるように」

昨年、本学企画イベントサークルideedの設立10周年記念に際して「国大生限定アーティストプロデュース企画」が行われた。プロデュースの対象に選ばれたのは奥川逸実さん（日文３）。アーティスト「いつみ」として、これまでに学外の音楽フェスや、ideed主催の「国学院大学Miss & Mister contest 2017」に出演した。今回は大学生活を送りながらアーティストとして活躍する彼女に迫る。

――いつみさんにプロデュースが決まったときはどのような心境でしたか。

いつみさん（以下、いつみ）　連絡が来たときは本当に驚いて、何回も文面を読み返しました。そのとき、歌がなかったら自分の人生は違っただろうなと思いましたね。交友関係もそうですし、ideedとも交わることがなかったと思うと、歌がつないでくれた関係はたくさんあります。

――アーティストプロデュースの企画が始まってから、自身の中で変化はありましたか。

いつみ　人前で話せるようになったというのがありますね。今までは緊張してしまい、失敗を恐れていました。「こういうことをしたら、人にこう思われるのではないか」と。「失敗するのであればやらなくてもいいや」と思ってしまうタイプでした。しかし今は、「やりたいことや言いたいことは言わなきゃ」と考えが変わりました。

――今後、音楽とはどのような関わりを持っていきたいですか。

いつみ　音楽は好きなものなので、どんなやり方だとしても、一生続けていくと思います。ただ、歌と伴奏を全部一人でする技術がまだ足りません。ギターをもっと練習して、まずは「ギター１本を持ってどこにでも行けるアーティスト」になるところからかなと思います。マイクがなくてもギターが１本あれば路上ですぐに歌えるとか、そのくらいの持ち歌や演奏技術を身に付けられたら一番いいなと思っています。

――ありがとうございました。

〈取材〉永井

◇

インタビューの詳細は、本学ホームページ内「国学院メディア」に掲載。

初舞台となった学外の音楽フェスで、歌声と演奏を披露するいつみさん（本人提供）

iTunesで楽曲配信中

iTunesでは「itsumi」の名で楽曲配信をしている。タイトルは「渋谷的日常の非日常」（150円）。

この曲は「アーティストプロデュース企画」のコンセプト「渋谷が知らない音楽」を軸に制作したもの。ideed代表の八田純一さん（経３）は、「渋谷にはライブハウスやストリートライブが多く、多様な音楽が集まっている。渋谷でいろいろな文化を感じ取っている大学生にしか作れない、今までにない音楽を作りたいと思った」と話す。

「渋谷的日常の非日常」のジャケット（ideed提供）

ボーカルのメロディーや詩はいつみさんとideedが考え、バックサウンドなどはプロから楽曲提供をしてもらったという。

この機会にぜひ、いつみさんの歌声を聴いていただきたい。

編集後記

卒業のため、今号が私にとって最後の制作となりました。

学生記者となった２年生からを振り返ると、多くの方々と話をする機会をいただきました。一人一人の熱意や生き方に触れ、心に響く言葉と出合い、取材後はいつも新しい世界を見ているようでした。この感銘をどのように読者の方々に伝えるのか、果たして伝えられるのか。日々苦戦しながらの３年間でした。

自らその場に行き、見て、聴いて、体験して、考えて、伝えること。この過程は、現代の便利なツールに頼るばかりでは知り得なかったことに気づくきっかけになりました。

３年間使ったノートとペン

最後に、これまでお世話になった方々、読者の皆さまに心よりお礼申し上げます。

（永井）